

第1章 鉄道交通事故の動向

1 近年の運転事故の状況

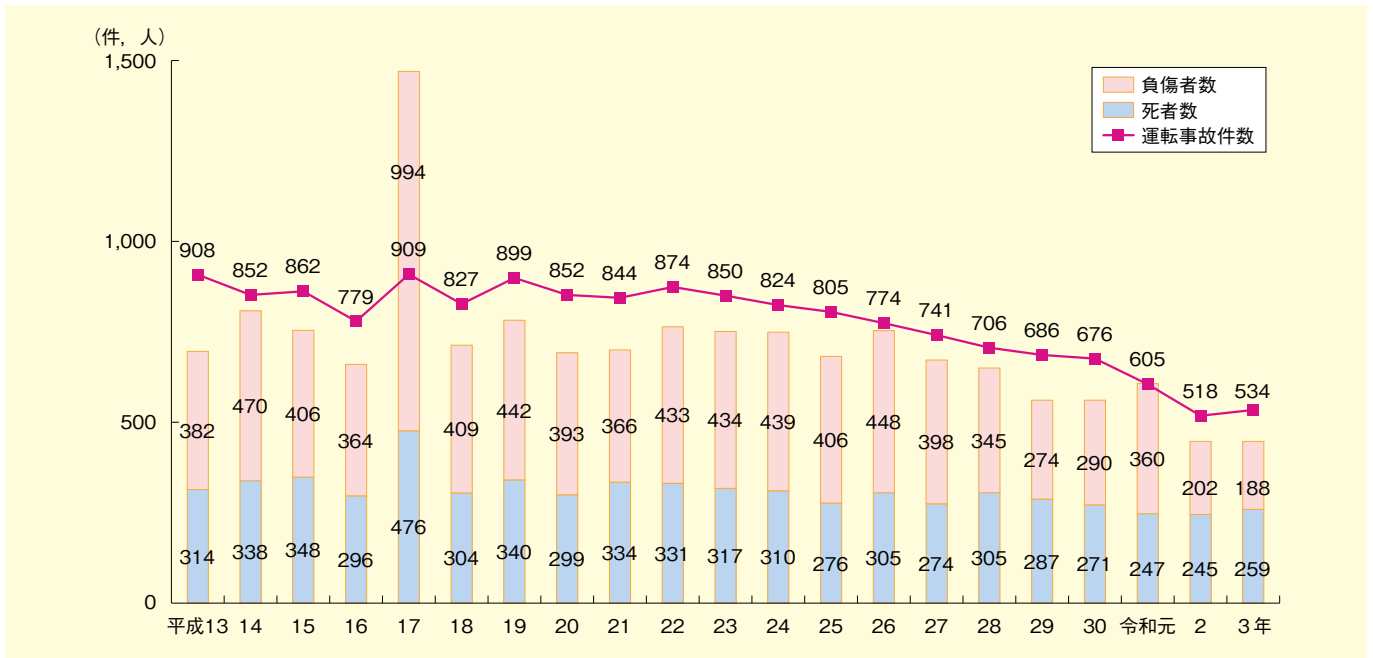
鉄道交通における運転事故^{*}は、長期的には減少傾向にあり、平成13年に908件であったものが、23年には850件、令和3年には534件で、前年比3.1%増であった（第1-43図）。

事故種類別にみると、令和3年は踏切障害が225件（42.1%）、人身障害266件（49.8%）、道路

障害32件（6.0%）であった（第1-30表）。

運転事故による死者数は259人で前年比5.7%増であり、乗客の死者数はゼロであった（第1-43図及び第1-30表）。平成17年に発生したJR東日本羽越線列車脱線事故以降、運転事故による乗客の死者は発生していない。

▶第1-43図 運転事故の件数と死傷者数の推移



注 1 国土交通省資料による。
2 死者数は24時間死者。

▶第1-30表 事故種類別の運転事故の発生状況

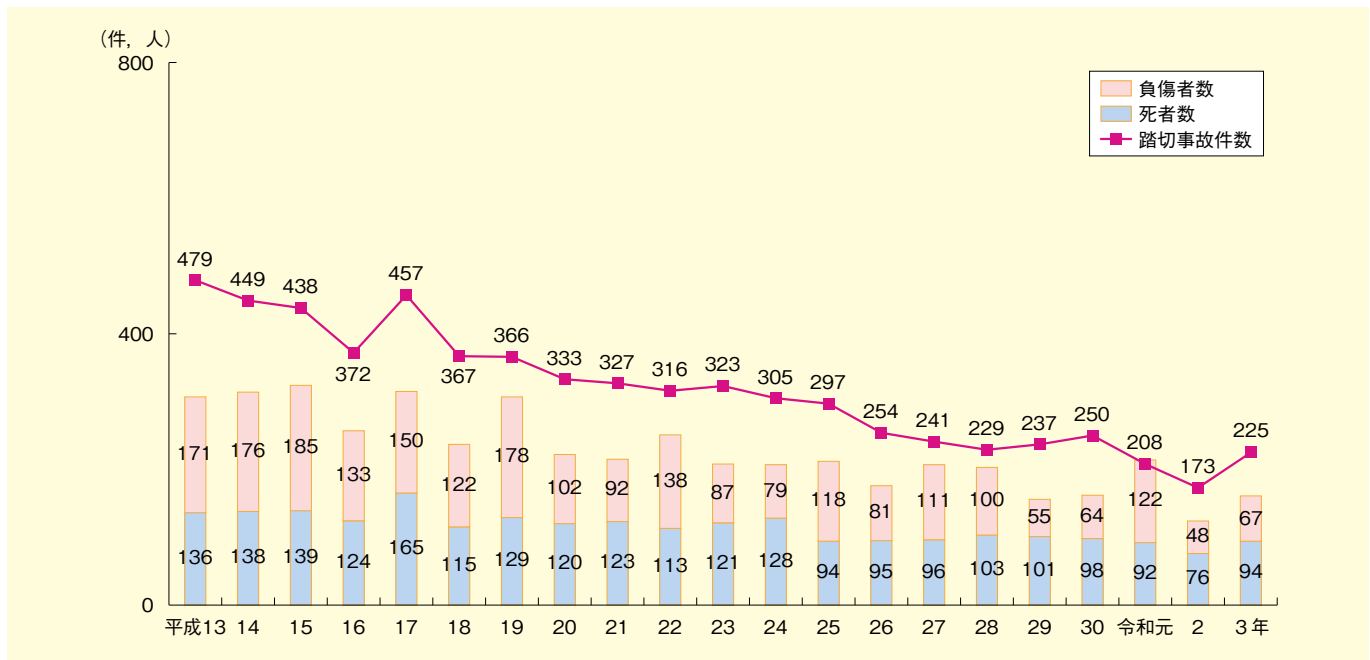
区分	列車事故				その他の事故					合計
	列車衝突	列車脱線	列車火災	小計	踏切障害	道路障害	人身障害	物損	小計	
件数(件)	2	7	0	9	225	32	266	2	525	534
	0.4%	1.3%	0.0%	1.7%	42.1%	6.0%	49.8%	0.4%	98.3%	100.0%
死傷者(人)	4	8	0	12	161	7	267		435	447
	(0)	(0)	(0)	(0)	(94)	(0)	(165)		(259)	(259)

注 1 () 内は、死亡者で死傷者の内数である。
2 踏切障害とは、踏切道において列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し、又は接触した事故のうち列車事故に至らなかったもの。
3 道路障害とは、踏切道以外の道路において、列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し、又は接触した事故のうち列車事故に至らなかったもの。
4 人身障害とは、列車又は車両の運転により人の死傷を生じた事故をいう（列車事故、踏切障害及び道路障害を除く）。
5 物損とは、列車又は車両の運転により500万円以上の物損を生じた事故をいう（列車事故、踏切障害、道路障害及び人身障害を除く）。

※運転事故

列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故及び鉄道物損事故をいう。なお、軌道の運転事故は、鉄道運転事故と同様に定義する。

▶第1-44図 踏切事故の件数と死傷者数の推移



注 1 国土交通省資料による。
2 死者数は24時間死者。

2 令和3年中の列車事故の状況

列車事故（運転事故のうち列車衝突事故，列車脱線事故及び列車火災事故をいう。）は，9件（運転事故件数の1.7%）であり，前年比2件減であった（第1-30表）。

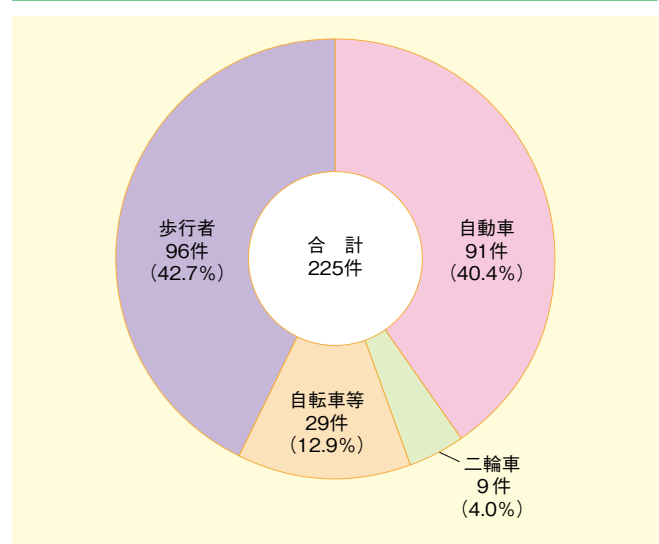
3 令和3年中の踏切事故の状況

踏切事故[※]は，踏切保安設備の整備等により，長期的には減少傾向にあるものの，令和3年は225件で前年比30.1%増であり，踏切事故による死者数は94人で前年比23.7%増であった（第1-44図）。

衝撃物別にみると，自動車と衝突した事故が40.4%，歩行者と衝突した事故が42.7%であった（第1-45図）。

また，第1種踏切道での事故件数が89.3%を占めているが，踏切道100か所当たりでは第1種踏切道が第3，4種踏切道の合計件数より少なくなっている（第1-31表）。

▶第1-45図 衝撃物別踏切事故発生件数（令和3年）



注 国土交通省資料による。

※踏切事故

列車事故のうち，踏切道において，列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し，又は接触した事故及び踏切障害事故をいう。

▶第1-31表 踏切道種別の踏切事故発生件数

(令和3年)

踏切道	踏切道数	構成率 (踏切道)	事故件数	100か所当たりの 事故件数
第1種	か所 29,567	% 90.3	件 201	件 0.68
第2種	—	—	—	—
第3種	639	2.0	3	0.47
第4種	2,527	7.7	21	0.83
計	32,733	100.0	225	0.69
(参考) 第3,4種 計	3,166	9.7	24	0.76

- 注 1 国土交通省資料による。
 2 踏切道種別は、次による。
 第1種 自動遮断機が設置されている踏切道又は踏切保安係が遮断機を操作している踏切道
 第3種 遮断機はないが警報機が設置されている踏切道
 第4種 踏切保安係もおらず、遮断機も警報機も設置されていない踏切道
 第2種については、現在設置されているものはない。
 3 踏切道数は、令和2年度末の数字である。
 4 100か所当たり件数とは、踏切道100か所当たりの踏切事故件数である。

4 人身障害事故の発生状況

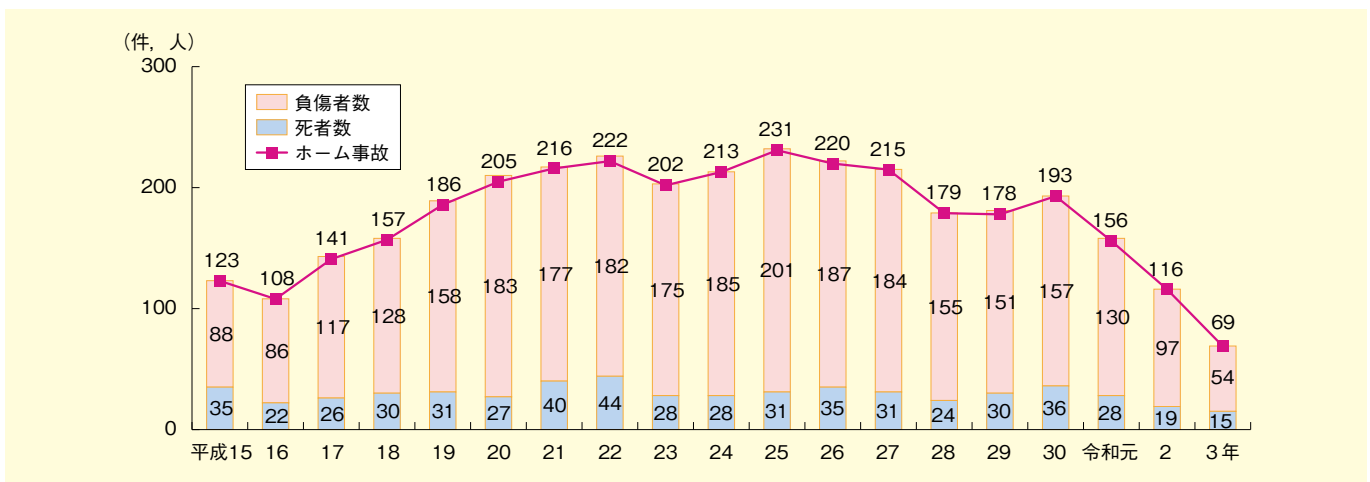
令和3年の人身障害事故は266件で前年比14.2%減、死者数は165人で前年比1.8%減、このうちホームから転落して又はホーム上で列車と接触して死傷する事故（ホーム事故）は、69件で前年比47件（40.5%）減であり、ホーム事故による死者数は15人で前年比4人（21.1%）減であった（第1-46図及び第1-30表）。

なお、ホーム事故は、酔客による事故件数が52.2%を占めている。

5 令和3年中の鉄道交通における重大事故の発生状況

令和3年に死傷者が10名以上又は脱線車両が10両以上生じた重大事故はなかった。

▶第1-46図 ホーム事故の件数と死傷者数の推移



- 注 1 国土交通省資料による。
 2 死者数は24時間死者。